御手洗夏季大祭

御手洗夏季大祭は、町内にある住吉神社、天満神社、恵美須神社の 3 つの神社が協力して主催している。毎年 7 月の第 4 土曜日に開催される。その歴史は 1740 年にまでさかのぼり、神輿を持って行列をしていたことが記録に残っている。御手洗が港町として栄えていくにつれ、祭りは次第に華やかなものになっていった。江戸時代（1603～1867）の一時期、演者の女性が三味線を弾きながらホームで踊った。神輿に先立ち、1761 年には物見櫓（やぐら）を象徴する太鼓奏者の乗った木製の台が登場した。

毎年約 500 人が御手洗大夏祭に参加する。祭りの期間中は、町中の家々に家紋の入った幕や提灯が飾られる。祭りは昼の行列と夜の行列に分かれている。昼の行列は正午に若胡子屋を出発する。櫓音頭の太鼓の音とともに行列が始まる。その後、御手洗の細い道を櫓が担がれ、住吉神社で行列が終了する。夕方の行列の間、櫓に乗っている太鼓奏者が太鼓を打ち続けている間、神輿担ぎ手は繰り返し演壇を 90 度近く傾ける。この急な動きは正確に行わないと危険であり、観客も怪我をしないように素早い足さばきが求められる。